

葬儀業界の経済分析

産業組織論パート

工藤聡汰

中村太一

増田雅紀

山本雅博

はじめに

産業組織論パートでは五月からパートの輪読を始め、様々な市場構造における企業の行動について学んできた。七月頃にテキストの輪読は終わったものの、三田祭論文のテーマになりうるものが何も思いつかず先生の助言をいただいた。そこで、「葬儀業界はどうなってるのかね」というお言葉から葬儀業の経済分析をテーマとすることに決定した。

葬儀市場の形態を把握することはなかなか難しかった。市場を日本全体と捉えてしまうと対象となる企業数（この場合で葬儀社の数）は5000を超えることとなる。また、地域によって住人の数や高齢者の数も異なることから、需要にも地域差が出ることが考えられる。そのため、日本全体を市場と考える分析は困難であった。一方、ある地域のみ限定して、その地域での葬儀業の需要を考えたとき、中小の葬儀業社からデータを集める必要があったが全くもってデータを集めることが出来なかったことから、こちらも分析が難しかった。

最終的には葬儀業に関してマクロ的な側面とミクロ的な側面の両面から分析しようという結論に至った。具体的には、BLPモデルを用いた需要の分析とヘドニックアプローチを用いた葬儀プランの価格決定要因の特定である。前者に関しては複数ある葬式のプランを差別化された財と捉えて、それぞれの葬式のプランの需要をs特性やサービスの特性や価格などに回帰して、何が需要に大きな影響を与えているかというアプローチである。近年の葬儀が簡素化している傾向から、参列者数など葬儀の規模を表すような係数などに注目したい。

本論文の構成は第一章で葬儀業の現状分析をする。葬式が簡素化している現状を示し、近年増加している直葬や家族葬など安く簡単な葬儀の内容について説明する。第二章では需要の分析を理論的に説明する。BLPモデルがどういった分析方法であるか、またモデルを採用して葬儀業の需要を分析する場合にはそのようにして対応するかについて説明する。そして第三章ではBLPでの需要の測定を実証する。第四章ヘドニックアプローチの理論の説明をし、第五章ではヘドニックアプローチの実証をする。